



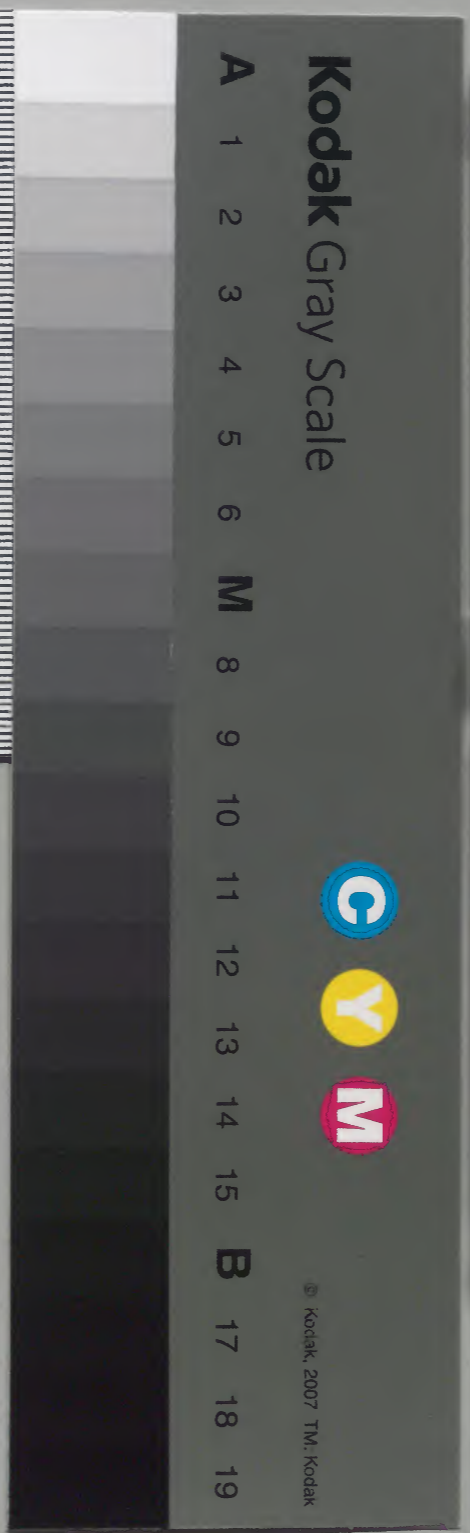
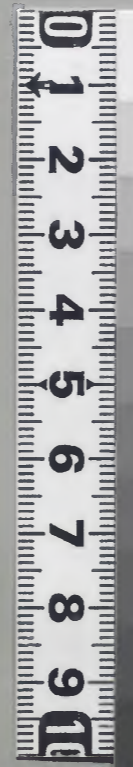
異國

庫文閣内			
八五	三五		和
一〇	三三		書
架	冊	號	類



内閣文庫	
番號	和 35238
冊數	12 (5)
函號	185 146

共十二



糊等で貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

187
989

編補面

裏

福建臬司府廈門海防廳加三級錄四次許

日本國王

朱印

洛文逸至

當堂問折

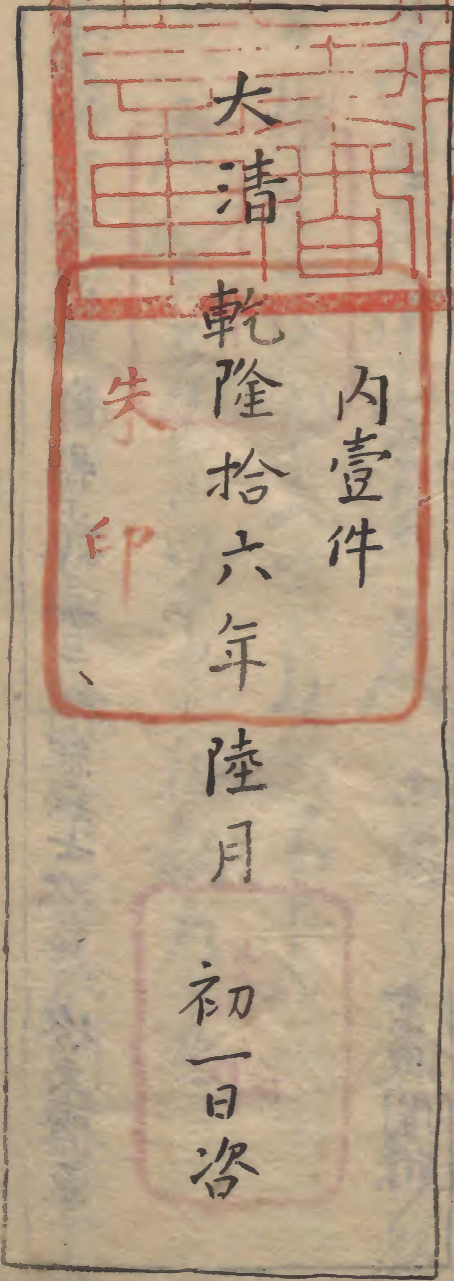
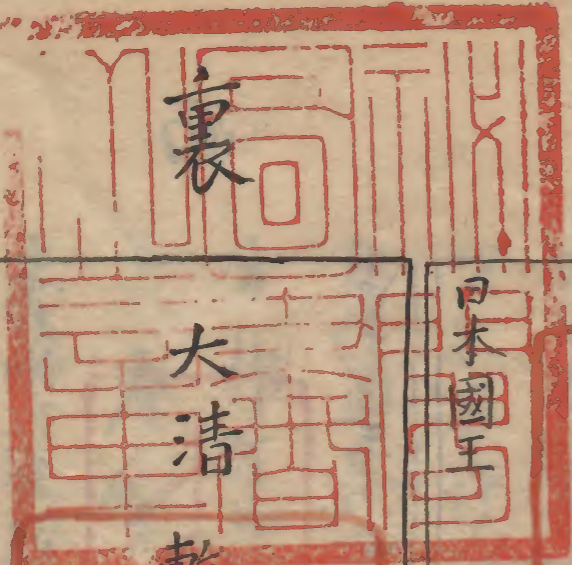
朱印

內壹件

大清
乾隆拾六年陸月

朱印

初一日咨



面

署浙江寧波府鄞縣正堂加三級紀錄七次黃 岑文齋至

朱印

朱印

日本國王

當殿開折

裏

大清乾

隆拾六年

十一月

初一日

朱印

右次ハ文也封一厦門海防雁寧丁波府の鄞縣支
 官前より日本國王に名刺を呈持候上
 古の色有ししを以て呈呈候所
 少文取付候所ハ古色を以て呈呈候所
 非代ス候中山支官ニ之ハ一由候所
 正作付由也ハ申上り候所
 唐ノ支官ニ之ハ申上り候所
 未指キ書取候所ハ申上り候所
 官系支官ニ之ハ申上り候所

既中しく友者又年友の三友家より何て故人
等と云ふ所を死に親苦を情に凡日用の
事々しく少も不自中にして故に彼に純まの幸
今年

皇上帝より南巡し又と帝号を龍鳳小を雲
興凌に深流を波に帝を 皇帝浙に化
許幸と云ふ及後建く想智恵小若玉龍船く
中へはをより波を帝の如く上を念くして日本
船船等不流くわ凡流く浪牌を及くわ船外

浙に省中小法提卷等と友人日本海海に
商人の中後布西へ西を流く波外にを帝
行と真上を流り若る急公司お替を此情
仕商人鄭をを戦副林兼山を法にお後
仕者をして真より帝を果其後等をして
吾等七人の死をおもせ流表と連流り此
報外中一もそ若何也元子修牌の法も小合を
用名仕次少き方府の故人等々を流り
中世をのりくわ船の波思を報流り此

あつたはくはくしきけきののち遠くゆく私大
らほふまふの物も
王上委向に御高倉をよむく始末をゆへ
りはの舟乗船のしよとよふて夜ふく長に年あ
らく七箇子あふる波尻小 王上けむり
の給候は遠く文友と絶私大御候をゆへ
物かよきあふ御座り作舟をよむく一私大
才飛舟の色をゆへる存室取すゆへく程ゆ
忠感微く候

寔曆元年十一月未接之書受而此紙

鄭方

賊刻林第山

宮臺之大業

日 亥後

衣冠の鄭青雲賊刻林第山宮臺之大業
芳徳も方よ生身の色和解

林仁彦下

右江府に

之色

河内府に

之色

右中府に

之色

右何れも右陽和解書に
右色元十二年
右七右右下下

右中府に
右色元十二年
右七右右下下

登大號記

信牌

署浙江寧波府鄞縣正堂加三級紀錄三次黃 為飭知事案蒙
 厦防分府檢役獲解日本國難番又五郎等七名到浙當即設館安置加
 意撫恤令令商人信公興借行南鄭青雲在木縣船戶彭世彬船隻置貨
 往洋貿易就使附送該難番等帶國除通報
 各憲並給咨該行商前赴
 日本王府告投外咨併飭知為此牌仰行商鄭青雲即使遵照務將五郎
 等在除小心照看加意供給定限叁個月回棹取領
 日本王回照以馮轉請
 題後事閱
 聖朝柔遠深仁毋得在途逗留越販有悞限期干咎須至照者
 許給咨文壹角
 乾除拾陸年拾壹月
 朱印 縣
 日給
 日繳

黑洲の事は彼府鄞縣正堂加三級紀錄三次
 蒙一役乃為名知事一厦門之海防より
 商人等係より海小日本の船三西又命
 等七人のとの洲の境小を云いしは舟
 舟別任名を中村就事一舟を舟舟抱いし
 りあしん物ふふ今度商人信公興下舟
 形形難事を多底ひし難航上船の船を
 備文名おを後事と日知し其氏高名
 ありしその事とふち知事とらましし國

唐國浙西省寧波府定海縣舟山内花山
溪流仕小奥良仙臺南苑の志捨入のり
写

松平清直書
中良致書仙法村仲多良

云々

仙法

願に

〇

仙法

〇

〇

仙法

〇

仙系

〇

仙系

〇

永春日九亦及帆寄但十三人獲おと地獄上人
物たとと未接とち総地子にの高堂をて年
十月のち帆仕少なるをてく風不吹舟
る印りきりま〜日せると午望細舟是
仲と上あま〜おと八百成の風烈更と上
ち空流りま〜あぬあつ不中仲のち(船)
く風まをりま〜風吹才了法くあぬ和をく
いあ〜日九の帆柱を切おち楫次〜船中
列〜く子腹ま〜いあ〜(堀水をて深い路)

お御いし〜。船後御ふ才信也凡とま音
細道〜く〜信存仕之〜おち仲〜く〜ま音
いあ〜のち風も音弱不中何おもま〜物た
流り〜信之を居〜内口唇控ま〜く〜あ中
不船あをま音と拵使音不船〜船結
一船を流し海申〜投入何と〜物命仕
何音ま〜く〜日布〜地と流音い信信〜
ま音仕〜く〜いあ〜く〜風弱い音ま〜方計〜
お音〜ま音ゆ〜あ〜く〜風〜く〜ま〜く〜いあ〜何年

石のちへ(宗廟)ト後らけおのるを
おのろくお備るも又く石の風を
吹下る(石)石の流る(山)も入る(石)大
灘へ石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)

其の節(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)
石の流る(石)石の流る(石)石の流る(石)

風子まきくおらふふち御不候ひまき
あ御のりも拝も次しゆる同初ふれ
ゆきもなふのまきたお成くくせ
御不候ひまきまきく凡百の金
ゆき

一まきまきくおらふふち御不候ひまき
ゆき山をへまきくゆき御不候ひまき
ゆきまき御不候ひまきおまきくゆき
ゆきまき御不候ひまきまきゆき

ゆきまき御不候ひまきまきゆき
ゆきまき御不候ひまきまきゆき
ゆきまき御不候ひまきまきゆき
ゆきまき御不候ひまきまきゆき
ゆきまき御不候ひまきまきゆき
ゆきまき御不候ひまきまきゆき
ゆきまき御不候ひまきまきゆき
ゆきまき御不候ひまきまきゆき
ゆきまき御不候ひまきまきゆき
ゆきまき御不候ひまきまきゆき

素紙の御まゝあへ山床の中をふあを
字をうねりおのり二二ホラしす布一三紙
仕文を直し十本の尾を月列揃お紙入を
被りよりあゆもすしおとこひ入をよ
紙夕らあのをあゆよの色うゝあへん
よ

一 窓切舟よとるをふゆより紙十寸の月か
がゆよの有りし布二二ホラしす布一三紙
志半紙はを直し直しを直し直しを直し直し

あへ風紙お紙直仕仕の紙紙よ
ふりけ紙直し直し直し直し直し直し直し
ニセイこし直し直し直し直し直し直し直し
方よとるを直し直し直し直し直し直し直し
直し直し直し直し直し直し直し直し直し

一 紙大圓紙より直し直し直し直し直し直し直し
おる直し直し直し直し直し直し直し直し直し
あへ直し直し直し直し直し直し直し直し直し
二二ホラしす布一三紙直し直し直し直し直し直し直し

よく挿すの儀代結の事しきく 詔一を多法
十相をすしゆく 出帆の所 永後仕ん 古来の
ヲけまおの儀きおえくく 当此おわく
そくと 西志はむ その事もさくこい 悉友不
おめお 永後 為 中 一 十 二 十 一

一 右文彦もふ 氏を月 仕来 印もえ せぬ
おろり 弟よ 神く どのぬ お返く ぬ
も 文彦もふ 氏を月 書人 多 候 候
代く け 色 つ 月 せ ころ わ き 出 一 書 ぬ

御す 江の 中 ぬ 痛 書 しの 介 而 地 の よ
集の 神 江の 中 ぬ 大 途 中 月 以 文 彦 也 不
一 故 衣 布 子 列 列 神 の 色 是 ぬ け 介 而 痛 書 切
く 書 也 廿 二 世 活 仕 の け 折 ぐ ぬ ぬ 一 下 ぬ
む ぬ ぬ 一 入 の 折 ぬ 書 人 也 書 人 一 下 ぬ

け 書 人 一 下 ぬ 一 文 彦 也 方 月 途 中 痛 書 者 ぬ
社 の 中 一 下 ぬ 一 痛 書 一 七 十 二 十 一 下 ぬ 一 下 ぬ
一 水 門 の 眼 書 ぬ の 事 也 下 ぬ 不 痛 書 者 ぬ
の 中 一 下 ぬ 痛 書 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

よく挿すの代結のしりしり 沼一色を法
十相をすしゆくお帆の如永後仕んち雲の
すけまおのほきおえりく 当代おおく
ろくし西を法もそのをすくし 悪友不
おあのお結局布一オニコト
一右文後ふたを月付来印もえをゆる

おろり布よ神くそのぬお返しり
も文後ふたを月付来印もえをゆる
代りしり色いつきろくわき印一布よ

神子法の中なる 一 吾人の介る印地のよ
まの神法の中くち送る中日月は文友も
一 故を布よ列陣の如し是のけ介る神法切
くまを廿二コ世法仕りくおくあふ
おまをこ入の如く 一 吾人の介る印地のよ

一 二におろりし文友もろく送る中法も
社のやをふあへ 一 吾人の介る印地のよ
おま門の眼まのそま下ぬおあ
の中なる神もおえりあもる例あり

二七

対うゆりの後由へいなるやうにあらざるよ

一右邊の中文字をよきく軍務多量のやうなる
よのゆやる人ち多量なるよきよのよも
左邊へくを遠ひるやうにゆゆのよ友友
をくくは終るる人お仕るくはゆゆのよ
も一向お志すよ

一右邊第八月十九日えの終ゆも新しきを
ゆゆのよ建くゆゆのよゆゆのよ保の
やうにゆゆの友友のよゆゆのよ

一右邊の中九月十七日夜作お仕対ふ振友
ゆゆのよゆゆのよゆゆのよゆゆのよ
ゆゆのよゆゆのよゆゆのよゆゆのよ

一二とホらゆ帆おゆをくゆゆのよ文友の
よゆのよゆゆのよゆゆのよゆゆのよ
そのよゆゆのよゆゆのよゆゆのよ
おゆのよゆゆのよゆゆのよゆゆのよ
ゆゆのよゆゆのよゆゆのよゆゆのよ
そのよゆゆのよゆゆのよゆゆのよ

片も何所

小巻
深物

小巻御沙事付家

是

一 積るの度あり男く幸冊小作取は是
御小巻の在るありありく存るは是なり

年山後も了くゆ不及中の有るは
御小巻の在るありあり

一 指入るは是なり幸冊小作取は是なり
御小巻の在るありあり

成
小月七

一 是建ち居るは是なり幸冊小作取は是なり
御小巻の在るありあり

不有波任私少私了千計小

一右之志長原小少あ〜と京小原原原

一あ上と代り相何も文原とるわあ小事

一右原志のよあ心事きあああ〜とああ原

少事

一原と〜若長と京より積出小結あああ

一京原少原〜京原原原原原原原

一京原原原原原原原原原原原原

少事

右之志 京原原原原原原原原原

戊 卯月七

一奥原原原原原原

京原原原原

口口口 京原原

口口口

口口口

右之志 京原原原原原原原原

少事

一 中云 なる入申

十二

一 今やん のしをみるん

十一

一 小刀 四本のしる習

一本

一 字 ちりしりす

四本

一 扇子 日ぬり扇

十八本

一 尺法 尺法さうり

二尺法

一 宝貴とまて代家

十一

代家若海子... 宝貴とまて代家... ちりしりす... 尺法さうり

一 宝貴 産戸のしるわらり

まじり

一 香玉 師法教まき香玉

まじり

一 尺法 尺法

二尺法

一 板及そり わらり

一尺

一 ちりしりん ちりしりん

まじり

一 ちりしりん

四本

一 尺法 尺法とまて代家

二尺法

代家若海子... 尺法とまて代家... ちりしりん

一 尺中

まじり

一 聖經 卷之二 四ノ巻 九段

一 聖經 卷之三 五ノ巻 九段

一 聖經 卷之四 六ノ巻 九段

一 聖經 卷之五 七ノ巻 九段

一 聖經 卷之六 八ノ巻 九段

一 聖經 卷之七 九ノ巻 九段

一 聖經 卷之八 十ノ巻 九段

旧本の巻目より
地をなす

一 聖經 卷之九 十一ノ巻 九段

一 聖經 卷之十 十二ノ巻 九段

聖

一 聖經 卷之十一 十三ノ巻 九段

一 法

以上

